

### ●夏原グラント 第2次審査 プレゼンテーション19日（日）

次の日曜日に夏原グラントのプレゼンテーションが開催されます。今回の助成金申請の内容は 里山農園の周囲に発生しているナラ枯れ巨木の伐採への助成金をお願いしています。これまで随分と整備に尽力をしてきましたが、高く急斜面の巨木の伐採はとて里山の会では無理な作業なので、専門家に依頼する経費をお願いしています。農園の周囲には希少植物が多くありますが、一昨年に完成させた周遊道路を使うことも難しくなっています。そして里山農園においても万一、枯れ木が倒れてくれば、命に係わる大事故となるかもしれません。大変危険な作業となっています。危険個所の取除きを進め安心して作業が行える農園が待ち望まれています。今回のプレゼンテーションの成功は、非常に重要な意味を持っているのです。プレゼンテーションを担当する大村君は、必死に練習に励んでくれています。近隣に類稀な自然環境を持っている場所を保全管理する上で、何としても危険個所の除去が進められるように期待しています。

### ●カスミサンショウウオ調査会

10日、今年度予定している観察調査会の最終日として、桜谷先生が参加いただきました。参加者は常連の方々が主力となって調査を行いました。なんと19ペアの卵囊が発見されました。約1時間30分間の短時間の調査でした。驚いたことに、一か所で8ペアが見つかりました。ほかにも4ペアが寄り添う形で固まっているものも発見されました。小枝に絡まっているものも見つかるなど、昨年とは大きく変化をしています。広い水たまりの方々に散らばって産卵されているのではないかと思います。集中しているということは、産卵場所が集中していることから、よい産卵場所がごく限られていて、相当厳しい条件となっているのではないかと推測されます。まさに貴重な場所となっていることを証明すると感じました。この場所の保存がいかに大切なものであるかが理解できました。ある方からメールをいただきました。観察や調査をする人を限定して現地の保存と管理をすることがいま最も大切な行為となるので、検討されるのがいいとご忠告をいただきました。ありがとうございました。

### ●親子花見乗船体験4月2日（日）

お水取りが終わると春の訪れが日増しに聞かれます。早くも桜の開花予想が発表され、気温の変化が気になりだします。楽しみにされている親子花見乗船体験は少し早いようですが、4月2日に決まりました。多くの皆さんのお越しをお待ちしています。田辺府営団地の西側の馬坂川は元天井川を切り下げられて、普段はささやかな小川程度の流れを綴喜西部土地改良区の協力を得て貯水が実現できます。これを活用して摂南大学エコシビル部の学生によるEボートの船頭を引き受けていただき、親子で船上から桜を眺める、ぜいたくが実現できます。

藤田カヌーさんのご協力があって、元気な子どもたちにはカヌー体験も行われます。これ等はいずれも河川レンジャーの取組みとして国交省による後ろ盾があってライフジャケットの使用や保険が効いているので、大助かりです。また、乗船足場の組み立ては府営団地の皆さんによる組み立てや、のぼり立てが行われます。関係者の方々に馬坂川の除草やゴミ拾いなどの清掃が行われ、随分と美しく整備されます。このように多くの皆さんの善意ボランテ

ィアで実行されています。当日第3集会所では木津川展が開催され、身近にある木津川ですが、なかなか遠い木津川の姿を身近に学んでいただける発表が行われます。連合自治会からは美味しいうどんの販売も行われ、普段体験できない楽しいひと時が演出されます。うどん以外は、無料なので大人気です。

### ●第3回マラソン実行委員会

荒天の中開催された第34回京都木津川マラソン大会のまとめとして、第4回実行委員会が開催されます。今回は各部署からの振り返りの報告書が提出され、第35回大会への備えが整えられることとなります。全国でも大型大会(東京・大阪・京都など)が目白押しの活況を呈していますが、京都府では最も伝統ある大会は、京都木津川マラソンです。特徴はローカルで手作りの環境マラソンとして、何よりも時間制限がなく初心者に優しい大会として34回連続開催を誇っています。この大会を正確にまとめ、さらに充実を目指すための実行委員会に期待しています。

### ●会誌42号原稿募集

毎回原稿集めに大変苦勞しています。また編集にも随分と時間がかかります。みんなで分けてパソコンに打ち込み写真を挿入し、印刷原稿を作り上げます、約1か月が必要です。4月25日を発行予定とすると原稿の締め切りが20日となります。仲間の広場や感想文、調査研究報告に積極的にご投稿ください。まもなく締め切りとなります。身近な日頃の出来事、自然の移り変わりに少し心が動いた場面をお送りください。気軽にご投稿ください。あなたが感激された場面を切り取ってお知らせください。ご投稿をお待ちしています。メールを歓迎します。郵送も大歓迎です。ハガキの一文でも絵手紙もお寄せください。お待ちしております。

### ●里山農園の運営について

これまで中心を担っていただきました皆さんの声は、高齢化と体力の衰えによって、根気が続かなくなった。それと栽培育成に力を入れても、なかなかいい反応に接する場面が少なくなってきた。即ち苦勞はいとわれないが喜びを分かち合えるところが少なくなって、少し情熱がなえてきたといった声をお聞きします。里山農園の社会貢献や豊かな自然環境保全への効果第一に、無理せず維持管理が継続する方向、楽しい農園、面白い農園、自然と親しめる農園活動を原点に戻って考える時期に来ているのではないのでしょうか。皆さんのご意見をお聞かせください。